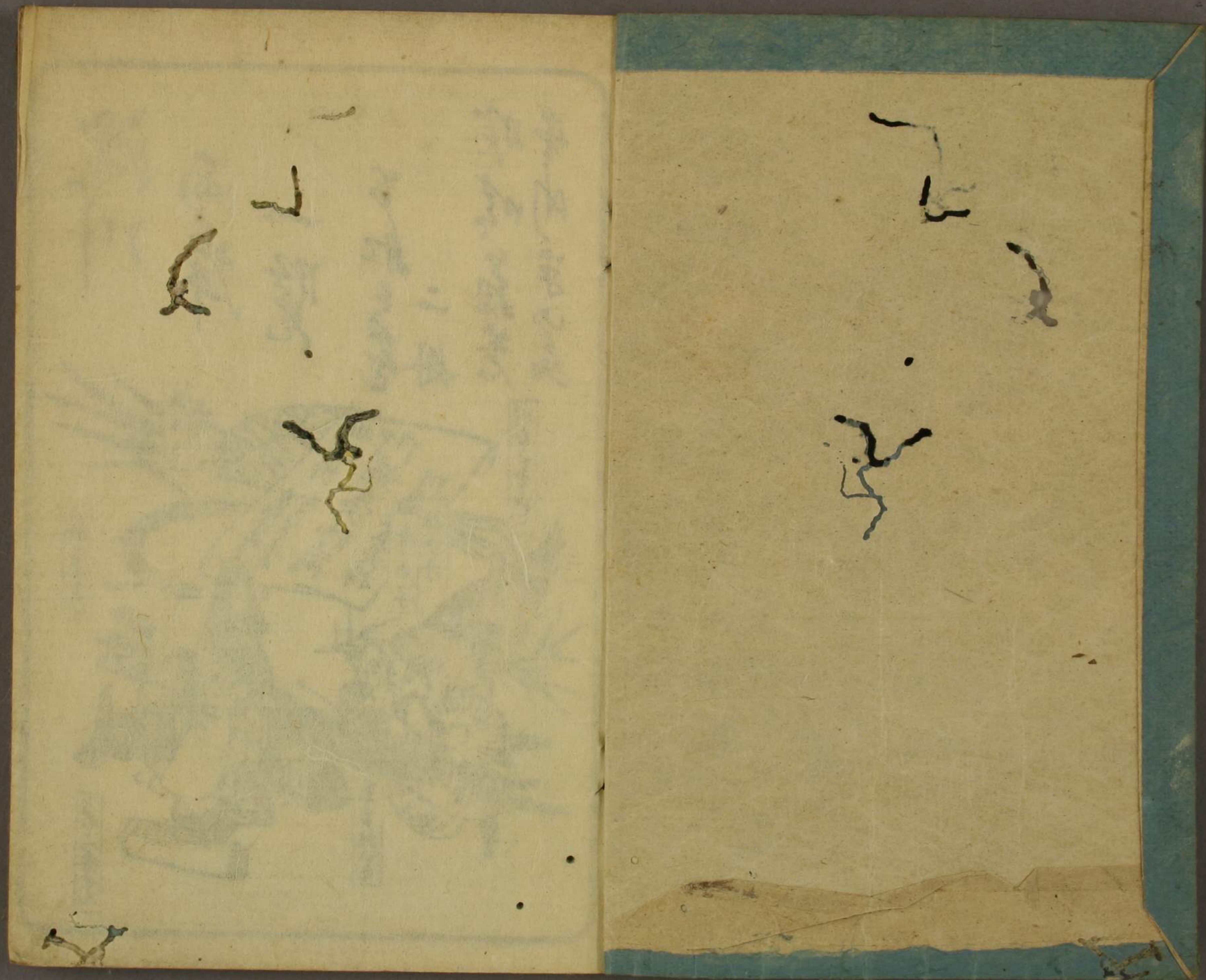


澱川西岸一覽
下り船之部
上

ル 4
2320
3





凡呂4
2320
3

渡川

兩度

上院

下院

二冊

曉晴の羽衣
東川半の島



あてえむい

ふん考せん

松より
小冊八小

ふん人形

東古殿いも

松の子

川をよむせ

日上落地後路紅雲
朝遠渾仰年豊千門
萬戸民相志禮樂長
存三代風
標齋



平
果



三條橋
 梅室
 三條橋
 梅室



三條橋
 梅室
 三條橋
 梅室

下
 上

四條橋

新を以て
しんみの
らきのみ
らき
ふてむら
こま代り
きふれ
地翁



新を以て
しんみの
らきのみ
らき
ふてむら
こま代り
きふれ
地翁





以
 下
 之
 事
 也
 井
 之
 事
 也
 兼
 刀
 の
 事
 也
 支
 考
 也

五
 條
 橋
ごとうのきし



ま
 が
 ね
 の
 村

從
 三
 條
 以
 下
 三
 橋
 澄
 方
 春
 翠
 画

京師

詩經云劉篇陟南岡乃觀于京京師之野云是也南箋云都邑也
晉書云京師之野朱註云京師之野是也南箋云都邑也

蔡邕獨斷云天子都之於所與京師天子都之於所與京師

みはるく地下の多きもの水は過るる形地上の衆きもの

天子の都より天子高き居しと遠く天子高き居しと遠く

都の人皇五十代桓武天皇興基より今の御代に至る

一千有載遷都する中華や其例を定む天津日嗣

の位より御堂濯川の流をたぐ億兆の歳と彌らん

の教を億兆の歳と彌らん億兆の歳と彌らん

の訓花洛花洛も秘せり

月清

昔より都あり吾國の吾國の

三條橋加茂川加茂川は架け東国より平安城に至る後京極

洛陽三條之橋至後代化度往還人磐石之礎入地五尋切石

柱六十三本蓋於日域石柱盤觴乎天正十八年庚寅

正月豊臣初之御代奉増田右衛門尉長盛造之

いまりおとよ
稻荷御旅所



街乃々々

まのつち

ちんちん

鍵のこま

まのつち

つらつらの

林のうしろ

千歳舎

鶴成



更衣 三條 五條 只丸

五條橋

三條橋の下に有初に松原通三條より則五條通に秀吉公の時此所ニ
五條橋通より五條橋通より六条場門に櫛子紫銅擬室珠左車六
四目一橋の銘あり 維陽五條石橋正保二年乙酉十一月吉日

奉行

芦浦 觀音寺 舜興
川 藤左衛門 尉 正長

此橋上の半より東に向ふ洛東の勝地木の間に小願れ
平安の佳景あらん止る

蒲團着る痛くとも

京師より浪華へ船を下るに大和大路 伏見より
嵐雪

是と本街道とを老人足弱の徒に高瀬川の下舟に坐して伏見より

も有又西の辺より伏見より東洞院の車道九條より東竹田と経

伏見の黒門に至る或は油小路より竹田と経黒門は出る是と竹田

街道と号し 西竹田東竹田の道 又陸路は東寺より鳥羽街を經て

淀に至るも有或は伏見より淀は出るも有り又東寺の四塚より

桂川と越る 高槻より鳥飼江口柴嶋と長柄ふ出て大坂

俗に西街道或は山崎と云ふ此道傳は長岡の天神向の明神山崎の八幡

道祖神社

江口の君堂柴島のとて堤と有る其まがめかうらむとて往來する
油小路通七条下る末例にあり 柴井 猿田彦命ニ世人首途神と稱
社内ニ天満宮あり碑と建鳥石鳥辰の銘篆字ハ岡白駒の筆あり

竹田分道
安樂壽院



あまご山



下
七

箱荷御旅所 道祖神の南二丁より西の神楽五座毎年三月中の午の日此

竹田 同南より伏見往來の順路あり此より過り真幡寸の辻あり

安樂壽院の良の糸と若の辻あり

安樂壽院 竹田村より北の方の本堂とあり

陀佛 本堂の東より釈迦彌陀 藥師堂 五輪塔 上皇如法經と

三昧土佛 藥師の三像弘法大師の作 基盤梅 鳥羽上皇城南の宮中より

新御塔 南の方の本堂とあり 本尊地藏菩薩 佛鳥羽院宸影美福院影

八條女院の影 二重塔 阿弥陀佛と安置し春日の作此塔は豊臣秀頼公の

右の油小路より下る道條より則安樂壽院の東門前より東

洞院の街道より出く伏見黒門に至る

柳茶店 東洞院通九条村より車道の傍に藤茶店 東竹田村より

材の東洞院通の街道と伏見黒門口に至る道條あり

高瀬川 加茂川の西より東竹田の北より加茂川を合し又合して伏見に出る加茂

高瀬の川條の中頃内裏御修理の材石と運がらん角倉

了以の作より嵐山の碑より見へり高瀬船は毎朝伏見より荷物と

下り



沓作
 車の上ヤ
 風善し
 衆雪
 ねそろの
 九條
 ねそろ
 細茄子
 堀只



柳茶屋
 車道
 掃き
 牛の草中の
 如行
 水と清さ
 ねそろ
 文豊

高瀬川

休朝老蹇就平夷
安坐不嫌篙子遲
官闈有便分水路
糞船何必插官旗
已過離島市聲遠
漸入竹田林影垂
蕭寺今宵欲投宿
桃山恰是發花時

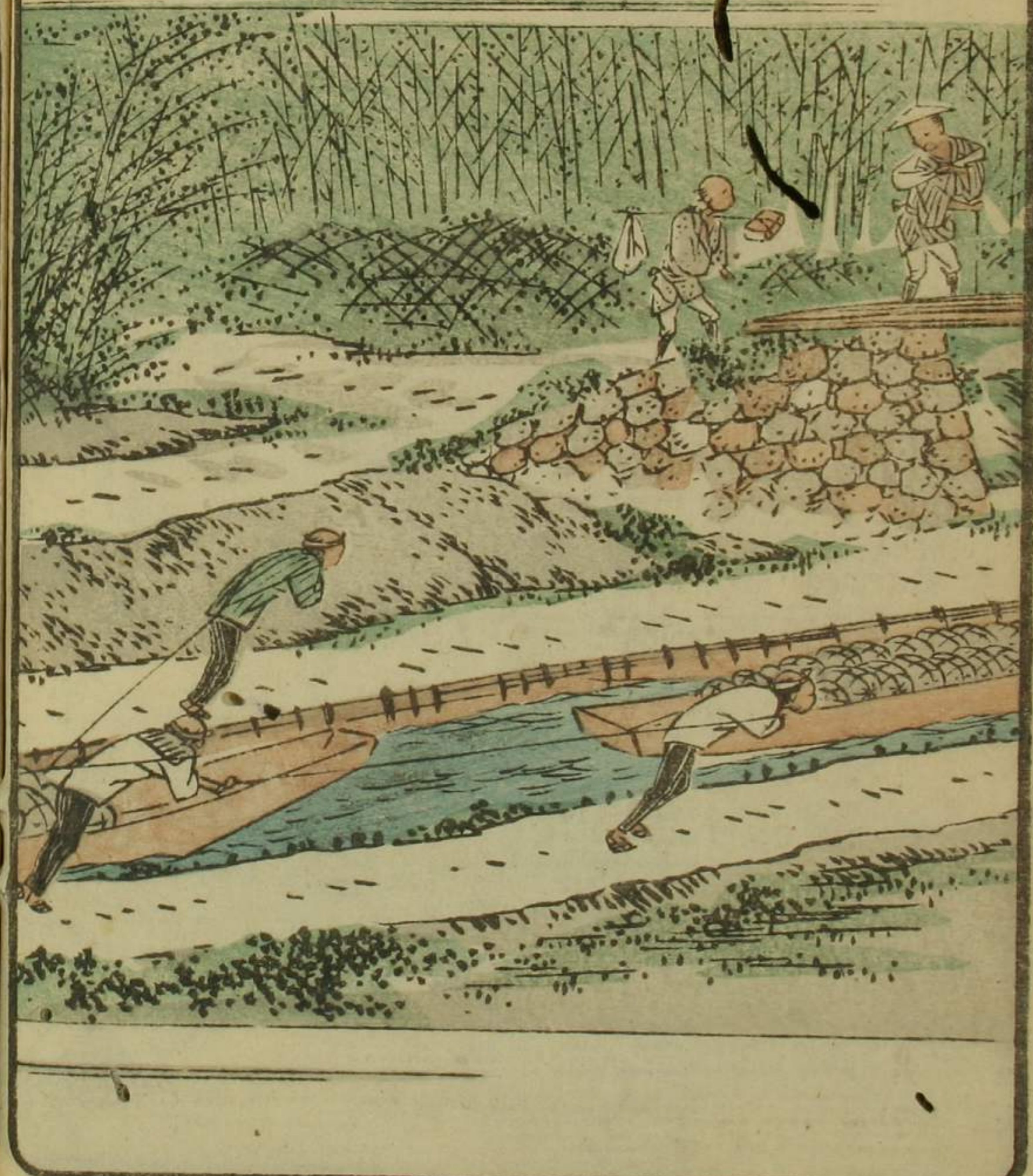
島棕隱

一そや

測候よろい

さる水

飄々



あつちや

物とつきり

うんち

一期

虫のまね

中とよる

さしぬ

舎蕃

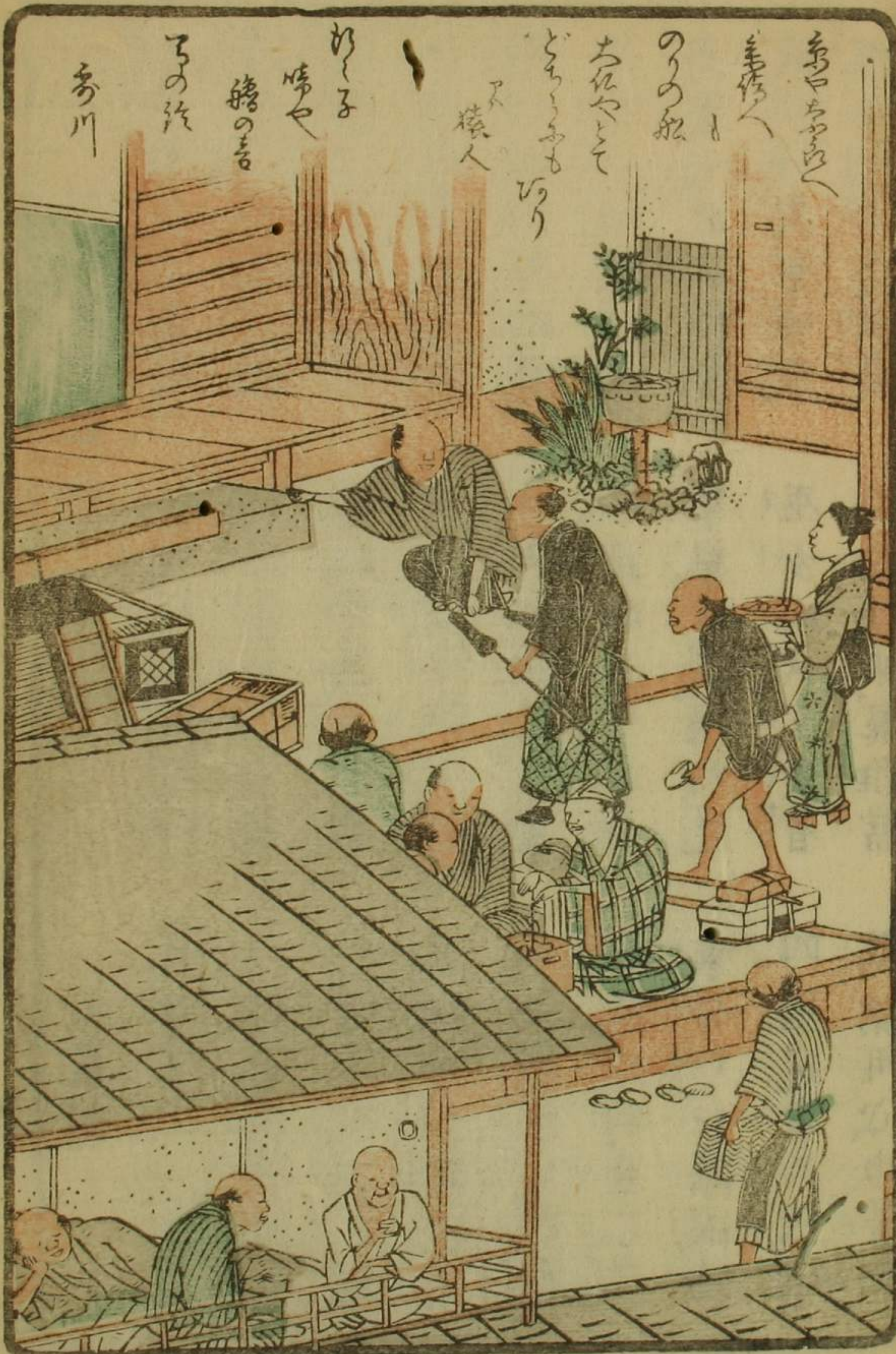


東竹田
藤茶屋

龍宮
その美子のねん
あーのそ
伴の園
豆席
谷原の庵
力丸

夕風
孫の石
柳亭
苗とれと
水鏡の
竹田
塘里





多白ちやん
 美作人
 のの船
 大佐やと
 どのも
 びり
 猿人
 りこ
 味や
 膳の言
 どの言
 多川



伏見
 船宿
 小状刺
 茶竈煙暄吹碧漪船
 家正是午驗時客來
 已滿蓬間座猶募私
 錢解纜遲
 曲々挑花蘿絳雲上
 舟人各帶微醺過橋
 出巷纔三里先占江
 南春幾分
 島掠隱

一
 三

三十石夜船行

王震起

船宿相連京橋傍
或去或來旅客忙
按摩上爛呼步賣
持荷若者送入艙
借切胴間雖稍廣
蒲團三帖糊殊強
高聲叱云勿出午
或歌或笑聲皆張
何處素干交狐臭

目印行燈每軒行
出殼煎茶水泥臭
鼻紙揚技於婆商
筓低恰如掾下住
不異饅頭詰重箱
船頭飯自中書島
早早可消挑灯光
巫女山伏卜筮者
紛紛傳來鼻難當

有登有下三十石
八杯豆腐當齒剛
支度已調暇乞濟
立欲着替數縮亢
虱虫數千這移瘡
取撓出時夜已央
乘合口口諸國話
四國道者西國娘
銘銘用心巾着切

合膝刺跡互怕狼
風寒波響世間靜
風與見得隣寐嬌
一向難留息子勢
愕兮引手舉首望
追々醒目何居負
法外雜言不足惶
其跡難往寐不就
一夜懇切互不忌
女中久因忍小便

一樣着眠疑疑蟻
犬吠遙過淀川防
月影賺窺胸幾躁
無分別起竊寒裳
起兮起兮寐惚輩
橫平買取助空腹
惜夫已到大事處
為野暮風思故鄉
上陸如散蜘蛛子
八軒屋頭雪隱長

誰人寐言全如狂
誠哉色本思案外
年頃過盛好器量
枕上急呼如雷落
沾餅飲酒食牛房
傍若無人惡口吐
田舍百姓無下妨
堪喜霧暗無人見
右往左往去四方

淀堤

信二 千両松と云ふ

是てあや

千両松よ

ゆききん

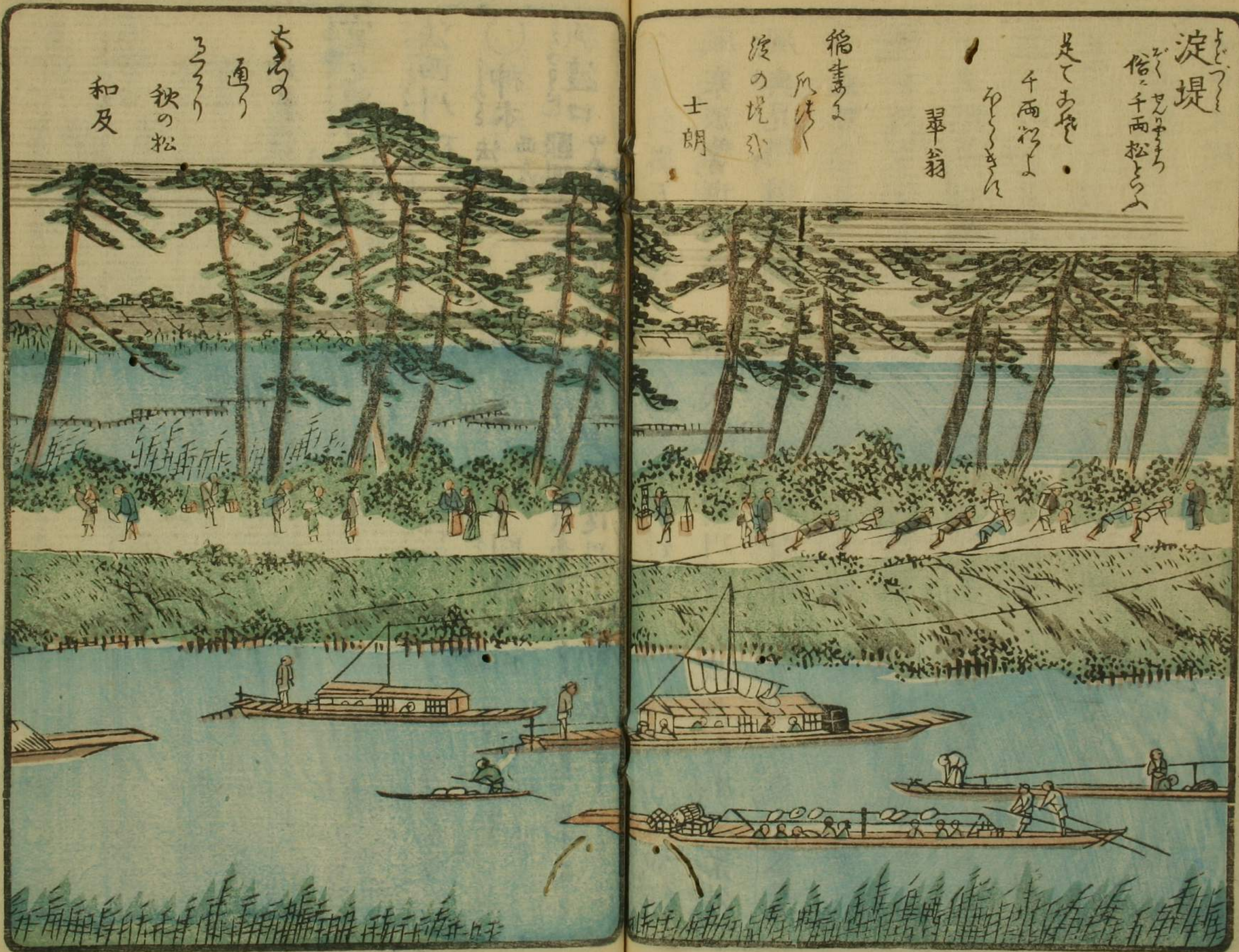
翠翁

稲妻

風流

波の堤

士朗



大木の
通り
ろろり
秋の松
和及

下
十五

鳥羽川 加茂川の下流より横大路の辺より桂河の末に合す ○水垂 鳥羽川の傍にあり

淀姫社 水垂村にあり 祭神三座中央淀姫神 東間千観内供 西間天神

当社に千観法師の 勸請ありし云 若宮 本社にあり 多寶塔 鳥居の東にあり 火大神祠 大日如来と安ん

地藏堂 本社にあり 例祭九月廿三日 神輿 基あり

宮之渡口 右淀姫の社の鳥居前より鳥羽川の落合と 小橋のせづりへの舟よりあり ○大下津 水垂村にあり

法西川 大下津村の 此所より大坂まで陸路行程九里の場所あり

○神木 法西川の 西にあり ○圓明寺 神木村の 圓明寺川 同村にあり

狐渡口 圓明寺の瀨より八幡の瀨まであり 渡の長サ百十間とあり 俗に狐川と誤りあり 川の傍に別名あり

山崎 山崎寺村の下にあり 茶店旅舎多く有て賑あり

大山崎天王社 天王山の 祭神素盞鳥等の御子八王子と鎮座し山崎郷中の生土神と例祭四月八日神輿三基と出あり

古戦場 天正十年羽柴秀吉明智光秀と戦ふ 世に山崎合戦といふ

観音寺 天王山の東半腹にあり 聖徳太子の 祖師堂 本堂の左にあり 真言宗にあり 即作 弘法大師の

後と 木食以空僧正中興して當時の如く再建あり 尚ちの安ん

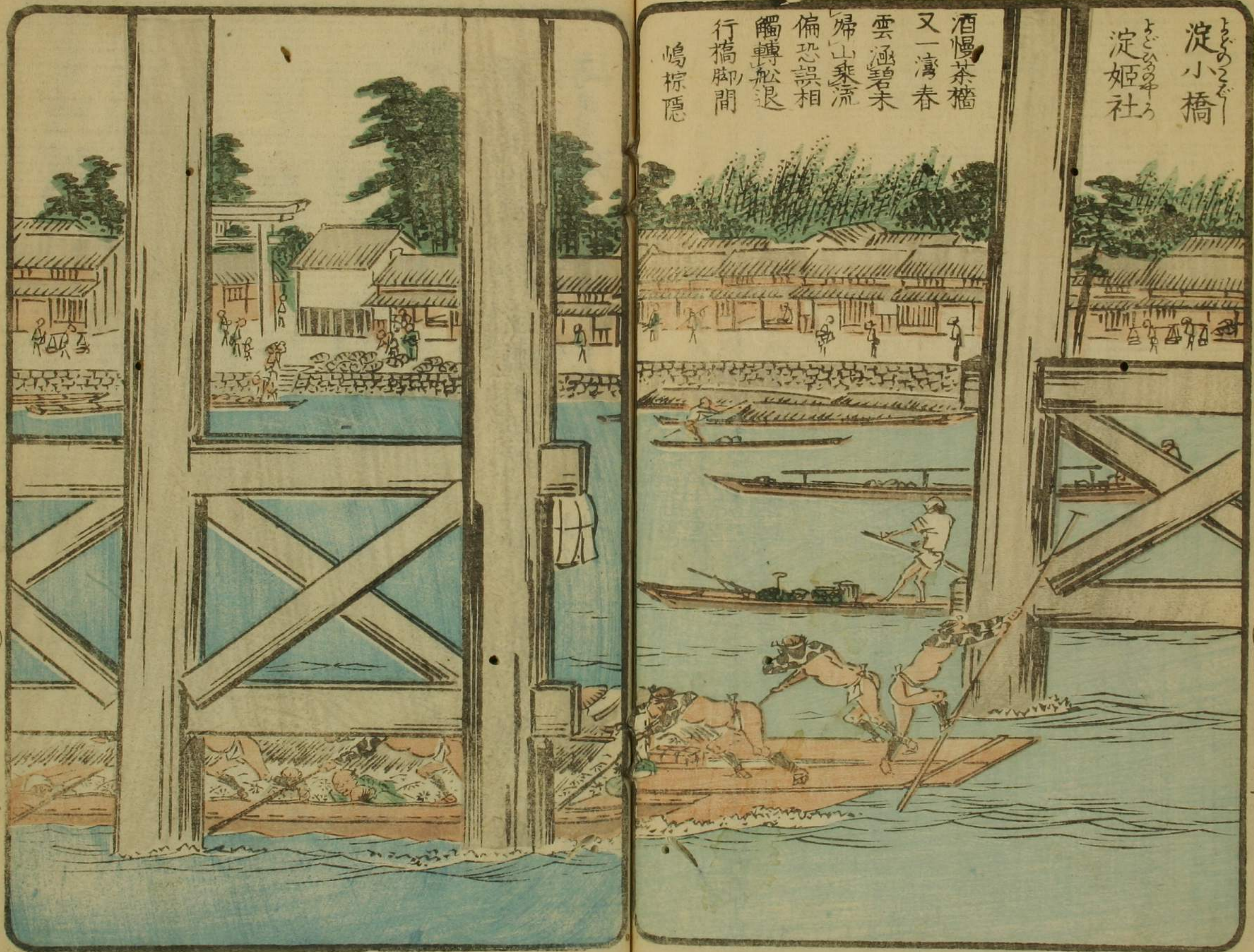
聖天堂 本堂の前右の傍にあり 天験 あり

寶寺 観音の南にあり 補陀洛山堂積寺 本尊十一面観世音 立像あり 聖武天皇と

行基大士の 三層塔 大日如来とあり 聖武帝石塔 波女 庭上にあり 両作あり 安置あり

淀小橋
淀姫社

酒慢茶櫓
又一灣春
雲涵碧未
歸山乘流
偏恐誤相
觸轉船退
行槁脚間
鳴掠隱



古城蹟

此城と築くといふ

妙喜庵

宝寺の林にあり禪宗にて本寺十面觀世音あり千利休の所を住し

宗鑑法師旧趾

妙喜庵の辺にあり宗鑑の足利義尚公の侍童として俗稱ハ

月弓の矢三郎名や二ひり

元順

有づゝ兒姿おやん燕子花

芭蕉

離宮八幡宮

山傍御乃の中ニあり 社壇の下ニ石清水涌出 本社應神天皇 左右ニ隨身の奇あり

若宮武内社

本社あり 宝藏御供所護摩堂 末社も社頭も觀たり

鳥居の額ハ行成卿の筆あり當社の往昔貞觀元年豊前国宇佐

宮より今の八幡山に遷らせ給ふのゆゑ此地に神降る其瑞日

輪のてし且橋樹の木蔭より清水涌出異香薰じ此事天

聽に達し勅を奉る清水と神跡に神殿と造営し

離宮の名に富社法皇の御名あり有弘仁帝の御狩の時夜泊し

菅公腰掛石

八幡の門外の傍にあり菅原公の御腰掛の石なり

君がさむ宿の梢と移くも移るくまのわたり 菅贈太政大臣

関戸明神社

同所の傍にあり関戸あり関戸院と号し今も

大山崎西觀音寺

山崎宮戸町の 本尊十二面觀世音 南浮檀金像長一寸 八分股士不動毘沙門

鎮守社 天照太神 八幡 春日 尚魔堂 此大山崎の驛路ハ京師九條東寺の西四塚より西南よつと掛川久世
關戸院旧蹟 山崎 關戸町の中ふらり古人の和がま

橋と涉り向町と歴々山崎は向ひ關戸院の旧跡より是関西三十

三列の官道として文禄年中豊臣秀吉公朝鮮征伐の時開く所

故に唐街道といふ古ハ羅城門今ノ四 たり南へ官道ありて久我運手

淀の大渡と越々山崎の橋を渡り關戸院より是より南へ芥川宿

河原 今ノ 瀬川昆陽より西宮兵庫須磨明石に至るあり

橋本渡口 橋本より山崎へ渡川と

水無瀬川 山崎の下廣瀬村よりひらひら關戸院と山城掛津の国境とせしむ

人ごころ何とたのまで水無瀬川せいの古なる朽果ねらん 若菜のじ

水無瀬渡口 山崎橋本の宿より橋別橋上郡廣瀬へ渡川とせしむ

素 君とこれ交野の里よりのみまきり幾夜もあせの流るるえん 憲 盛

○廣瀬 右一村に淀小橋より以前まきり水上凡五十町許は地より西橋井

水無瀬殿 廣瀬村にあり羽林家が系氏に旧此所の文徳帝第一の皇子惟喬親王

故宮の遺蹟に文徳帝第四の皇子惟仁親王忠仁公外祖と

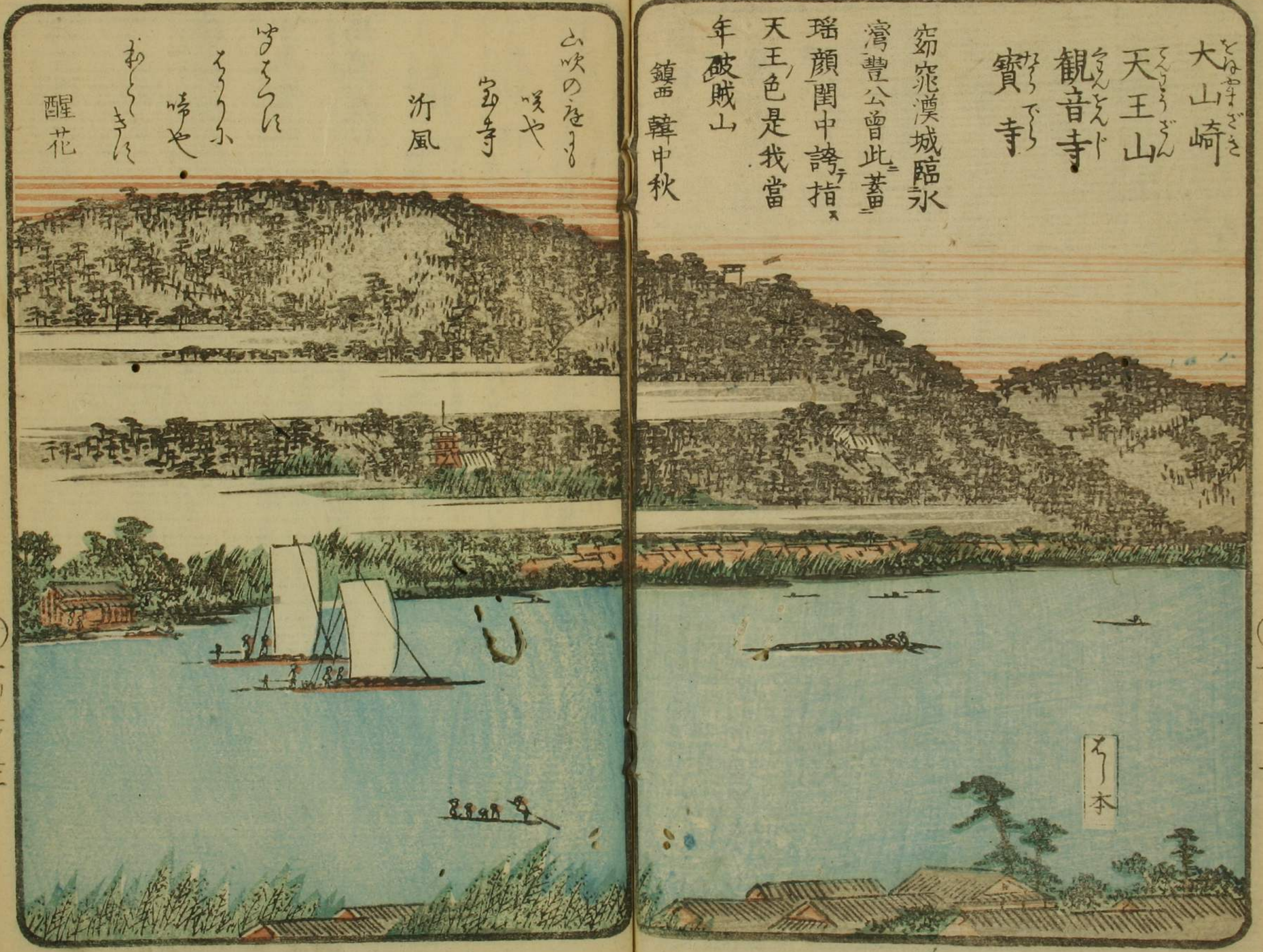
ゆきと立り東宮といふれ 清和天皇よりあつたなり 惟喬親王より

よきと立り洛外北山あり山崎水無瀬宮等 幽棲する

大山崎
天王山
観音寺
寶寺

窈窕漢城臨水
濟豐公曾此蓄
瑤顏閨中誇指
天王色是我當
年破賊山
鎮西韓中秋

山吹の庭も
嘆や
妙寺
沂風
おろろい
くろくろ
あき
醒花



下リノ七二

下リノ七二

石本

後鳥羽院御廟 水無瀬殿の御廟 後鳥羽院遷幸のありし

阿弥陀院 廣瀬村の正法山と号し浄土宗本号阿弥陀佛行基作 観音堂あり水無瀬家の菩提所なり

廣瀬神祠 同村の西八王子と称し近隣四ヶ村の生土神なり 社頭は小鳥祠あり

水無瀬里 廣瀬村の旧号なり古く多し畧之水無瀬 高濱 廣瀬村の 下あり

高濱渡口 六橋井村のなまり水無瀬の流其山間あり 按り島上郡高濱村より河川交野郡植葉村へ流川と なるなり長 百七十間あり

○上牧 高濱村の下あり御牧のあり旧跡あり則上の上牧に 中の所牧は柱本としてあり延喜式に出水所より水を水上九十町半余

上牧神祠 上牧村のあり古村おびた松原井原兩村の 生土神なり

本澄寺 右同村のあり日蓮宗洛陽本願寺に属し俗に上牧の高祖と称し 是より北街道筋梶原村に一乗寺として同宗の大地あり

當寺本堂に安置する所の高祖四十二歳御自作の木像とせせに

厄除の高祖と稱し宗門の男女帰依して三月十二日京師より

群衆駈上鳥羽法花溪より乗船し船中にて題目と唱へ太鼓

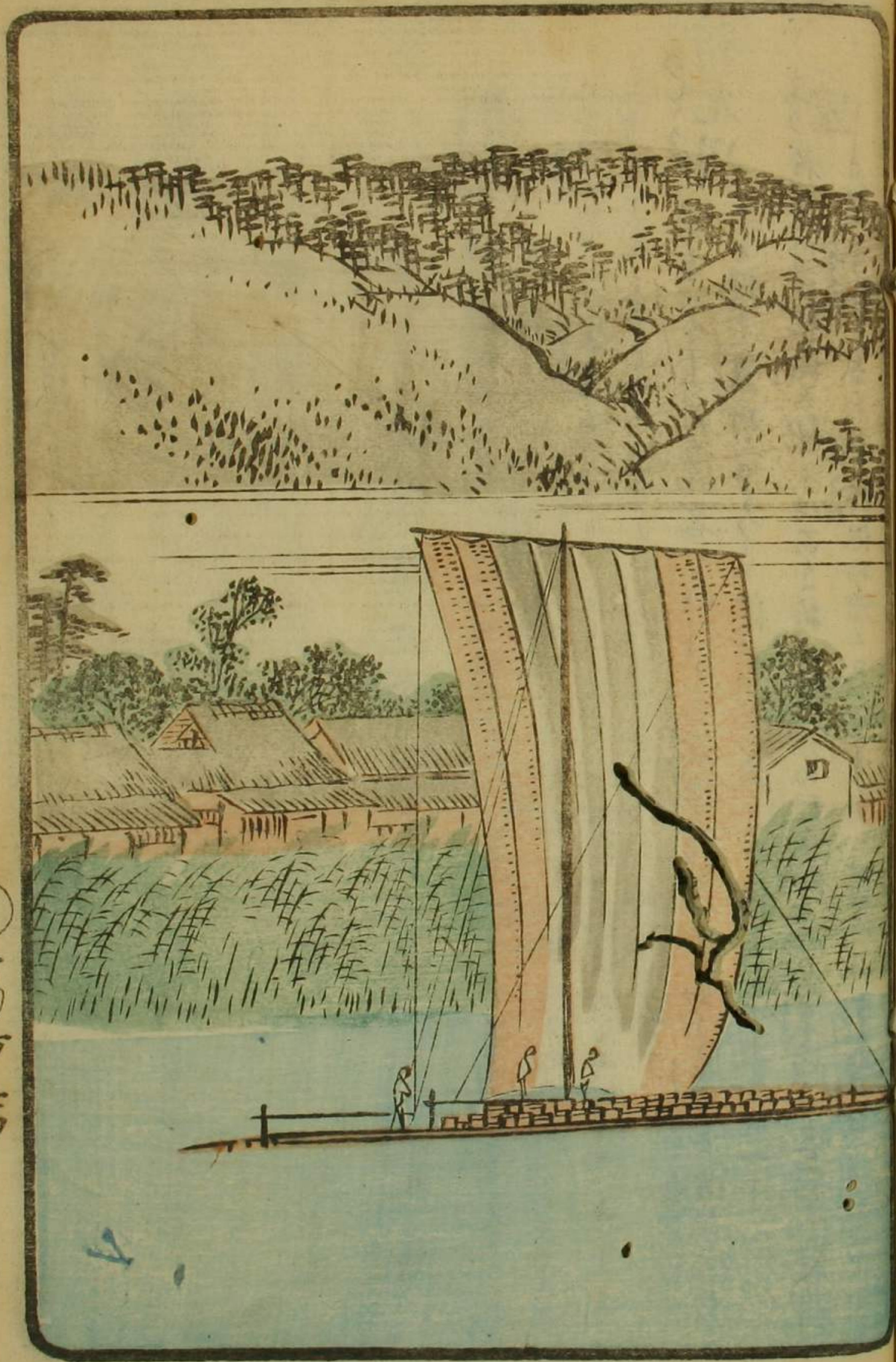
と打りて淀の大河も狭くと漕下せり又九月十二日の浪花より

も同じ前夜より乗合の船に異體同心の男女押合し各祖像の

船扉と争ひ拜し平日の容易閑く事と許さば扱又當村の悉く

經宗として右春秋兩度の法會より農業と休む寺へ打りて

諸人と餐と事宛も生土神の祭礼の如し



燕村

鶉殿



すねりん
 おのり
 備のまき
 あぬや
 杉の
 芦の山
 カ丸
 鶉の啼也
 うづり
 何仰

○ 鴨殿

名産蘆

上牧村の下ニあり川辺ニ葎島あり鴨殿の鴨と云
土佐日記ニ云 今昔有らざるのといふことありは白狐云云
右鴨殿村の境ニ生ゆる蘆あり葎葉の義背ニ可なりと云
やうく下り世々名産と云ふて貢よてまつる云

葎葉の小舌かれぬと啼千鳥

青雨

芦のうらた糖液は啼やわらぎん

五雲

○ 道西

鴨殿村の
下ニあり

○ 前島

道西溪の下ニあり村中ニ葎島あり
酒飯も自由なり勝手なり此と云ふなり

○ 檜尾川

前島村の下ニあり一名七瀬川と云水涼
上り客あり又客あり上下あり同ノ上牧より此所の集場まで水上凡
三十六丁半余ありは取らり大坂まで陸行六里あり

○ 冠

檜尾川の辺にありは西ノ柳の摘冠の形に似る名木あり名つて冠柳
と云ふ今昔にあり字付保お語に云ふことあり旧ハ冠柳村と云ふ

○ 深澤

冠村の
下ニあり

○ 大塚

深澤村の下ニあり村中ニ塚あり大塚と云ふ
其姓名詳なり

○ 大塚渡口

傳上郡大塚より河別茂田郡牧方駅三夫ニ渡川と云ふ
此地の向ふ牧方の驛されば名物の貨食船漕せし上下の

○ 琴

船客の酒飯と高き俗に吟りんる歌と云ふ

○ 高

高ひよつらひもねくちやまて実らんらんを吟りんる歌一雑

○ 目

幸あ合の星のたが申模さるる吟りんる歌庭茂

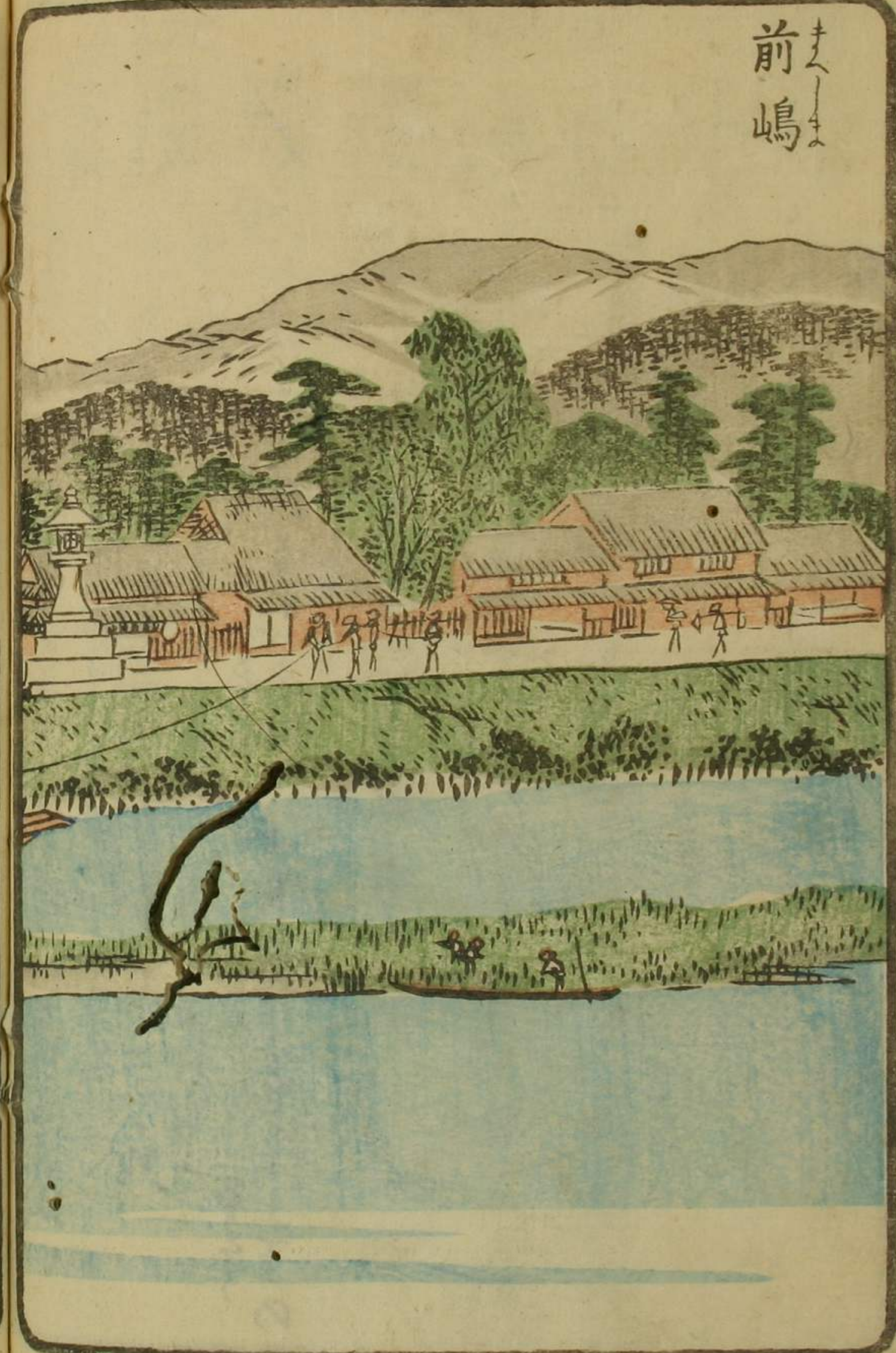
○ 番田

大塚村の下ニあり冠村より南村まで
水上九十三丁余ト云

○ 高槻城

前島より十八丁西ニあり唐崎より十八丁北ニあり
永井彦の居城なり城下の民家建つるなり頗る整ふるなり

前嶋



空

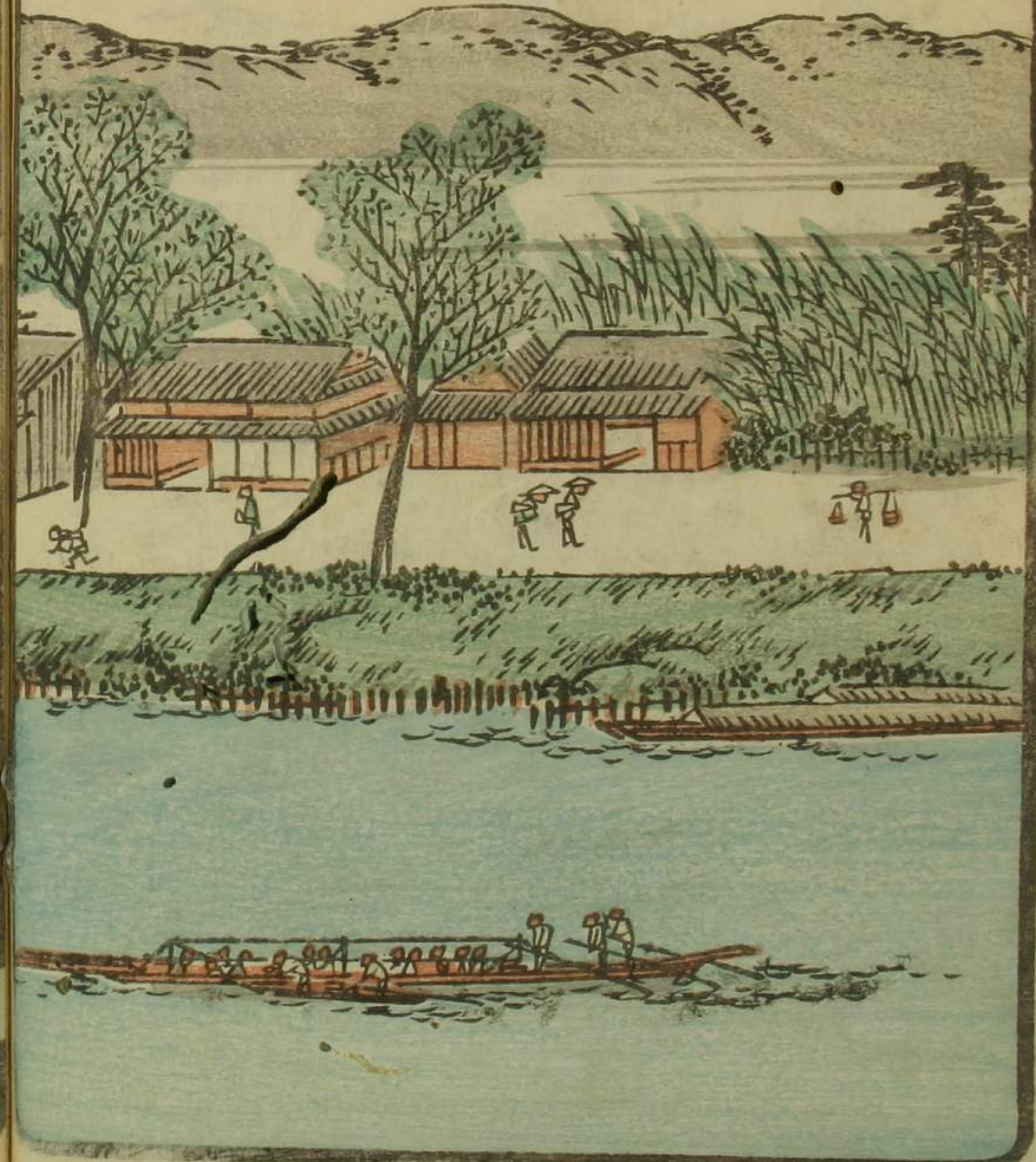
船つけ
小便と
女連れ
楽
かろ
ふし
赤襟姫成



空

大塚

のり船の水まゝ
大塚の下より上りて
三町ざり曳上り
後尾川より船
うらみ又さ
とるまゝ



伏見より
渡のしめと
すむ月

のり
百百きうか
を樹





